

日本基督教団関東教区「東日本大震災」被災6周年
「『東日本大震災』被災教会・被災地を覚える主日」共同の祈り（代表祈祷用）

神さま、「東日本大震災」発生から6年を迎えて、私たちは今ここにあなたの執り成しを求めて祈ります。大地震と大津波によって多くの尊い命が犠牲となり、東京電力福島第一原子力発電所の事故は深刻な放射能汚染をもたらし、避難のため多くの住民の生活に影響がもたらされました。

被災された方々は、今もなお多くの困難のなかにおかれています。そんな中で、被災から立ちあがろうと懸命に歩んでおられます。主よ、その歩みをどうかお助けください。そして、被災の悲しみや愛する者を失うことになった喪失感の中において、主の平安を与えてください。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、原子力に頼る私たちの生活が、主が創ってくださった自然を壊すことにつながることを私たちに教えました。しかし、それにもかかわらず原子力発電所を再稼働していくこの国の動きに問題を感じています。今、再び原発を再稼働させ原子力に頼ろうとする動きに対して立ち向かい、同じあやまちを繰り返すことのないよう、主よ、私たちを「地の塩・世の光」としてください。

奥羽教区の祈りを、私たちの祈りとします。

「2011年3月11日午後2時46分と4月7日午後11時32分に、地震と津波による被害は主として岩手県の沿岸と内陸地域に集中しました。この6年間、日本基督教団救援対策本部を中心に救援支援がなされ、2016年度は、教会堂牧師館再建事業の最後として江刺教会の礼拝堂新築工事に着手し、2016年11月3日献堂式を奉げることができました。6年間のお支えに感謝いたします。

奥羽教区では、地震直後、直ちに常置委員会のもとに緊急支援委員会を設置して、救援・支援活動に入りました。特に、礼拝堂・牧師館の修復・新築は、被災教会の決議に基づいて進められました。千厩（せんまや）教会は、土地取得・移転新築、新生釜石教会は、修築完了、一関教会は、礼拝堂の大幅修復工事完了、宮古教会は、土地取得・移転新築し、江刺教会は、建物付きの隣地を購入し牧師館とし、礼拝堂を新築しました。このために教団全体からの祈りは勿論、海外の教会の支援に支えられました。心より感謝いたします。

また、教団救援対策本部からの借入金返済の努力を続けている教会があります。2017年2月現在の借入残高は、修復の一関教会 260万円。新築の宮古教会 4000万円、新築の江刺教会 3350万円の返済が当然のこととしてのしかかってきます。特に少数の現住陪餐会員で、宮古教会と江刺教会は20年間の返済を担っていく教会員一同、一層の努力を重ねています。これらの教会への支援体制（緊急支援委員会・緊急支援会計）を奥羽教区として継続することを常置委員会は確認しています。ご加祷ください。」

主よ、一つひとつの教会と教会の方々を支え、奥羽教区の働きをお支えください。

東北教区の祈りを、私たちの祈りとします。

「東日本大震災発生から6年、目に見えるあり様はずいぶん復興したように思えますが、なお多くの人がさまざまな課題の中を歩んでいます。主の憐れみと支え、導きを求めます。一方私たちは、生ける主の臨在と寄せられる多くの祈りに励まされつつ歩んでいます。

日本基督教団は2017年3月末をもって救援対策本部を解散しますが、東北教区は設置している「教会救援復興委員会」「被災者支援センター・エマオ」「放射能問題支援対策室・いずみ」について、2019年3月までの継続を目指しています。弱者が取り残され、放射能による健康被害がより心配される段階に入るからです。いずれもささやかな働きながら、東北の教区・諸教会が、主から託された働きに向かいあうことができますようお祈りください。

会堂・牧師館の建て替え・大規模改修を余儀なくされた教会は19あり、その内14教会が教団より貸付を受け、会員も被災している中で最長20年の返済に向かっています。これが支えられますようお覚えください。このため、東北教区は「東北教区東日本大震災救援を続けるための募金—教会の返済支援のために」を、現在お願いしています。この必要が満たされるようお祈りください。

放射能被災のため、浪江伝道所・小高伝道所は平常活動を休止しています。再開し得るのかについては、判断が困難な状況です。よき方向が指し示されますようにと祈ります。」

主よ、一つひとつの教会と教会の方々を支え、東北教区の働きをお支えください。

東北教区被災者支援センター・エマオの祈りを、私たちの祈りとします。

「被災者支援センター・エマオでは石巻と仙台で「祈り」と「スローワーク」を繋げています。石巻市では、復興住宅整備の遅れなどから、仮設住宅に残らざるを得ない5,251名の方がいます。仙台市では、昨年9月末にプレハブ仮設住宅に住む方は全員出ましたが、みなし仮設住宅に1,896名の方が残っています。同じ宮城県内でありながら、復興のスピードに違いが出ています。仮設から移った集団移転先で、むしろ孤立を抱え「仮設の方がよかった」と言われる方たちがいます。目には見えない「心の復興」にはまだまだ時が必要です。お一人お一人に支えと癒やしとがありますように。

エマオはこの春に体制を縮小していきます。スタッフ体制も14名から4名になります。しかしこれからも、石巻では仮設住宅・復興住宅訪問、お茶っこ、うたっこなどを続けます。仙台では元仮設入居者の方たちによる「七郷地区仮設同窓会」サポート、長期休みに限定した子どもプログラム・ささっこクラブ、孤立しがちな方への訪問を続けていきます。被災されたお一人お一人のことを、そしてエマオのことをお祈り下さい。」

主よ、被災された一人ひとりを支え、東北教区被災者支援センター・エマオの働きをお支えください。

東北教区放射能支援対策室いずみの祈りを、私たちの祈りとします。

「東北教区放射能問題支援対策室いずみは2013年10月から活動を開始しました。この3月で第一期の活動を終え、4月から新しい体制で第二期に向おうとしています。できるだけ長く活動を展開するために、スタッフが4名から3名に、経費も大幅に削減して進めることとなります。しかし、託されている課題は重く、大きなものですので、可能な限りこれまでの活動を継続するつもりです。チェルノブイリの事例では事故後5年後から小児甲状腺がんが多発してきました。その意味でも甲状腺検査には力と祈りを込めて対応していこうとしています。どうか、一人でも多くの方にいずみの存在と働きを知っていただくことができますようお祈りください。お祈りとご支援をお願いします。」

主よ、被災された一人ひとりを支え、守り、導いてください。そして、東北教区放射能支援対策室いずみの働きをお支えください。

2016年4月14日に発生した「熊本・大分地震」による被災を覚えて祈ります。そして、被災支援に取り組む九州教区の祈りを、私たちの祈りとします。

『熊本・大分地震』で被災されたすべての方々を覚えて祈ります。震災発生以来、合わせて4,000回以上の揺れを経験する中、拭えぬ不安を抱えて過ごす多くの友がいます。11か月を経過しようとする今も、倒れたままの家屋が立ち並び、撤去もできぬままになっている地域もあります。今後も、仮設住宅での孤立や健康の問題等、様々な課題に直面します。覚えてお祈り下さい。

被災15教会・伝道所の再建を覚えて祈ります。被災15教会・伝道所の内、現在補修工事を終えたのは2教会にすぎません。業者の不足や物資の高騰により、見積もりすら取ることのできない教会も多く存在します。余震の影響による「会員の流出」も、大きな痛みであり続けています。疲労を抱えつつ、今後も長く再建への課題に向き合う一人一人を覚え、ご加禱ください。

ボランティアセンター「エルピスクまもと」の働きを覚えて祈ります。九州教区と在日大韓基督教会の共同で、在日大韓基督教会熊本教会に設立されたこのセンターでは、避難所、仮設住宅でのカフェ活動、引っ越し作業を軸に活動を続けてきました。小規模ではありますが、だからこそ生まれる「一対一の出会い」を大切ににあたためつつ、これからも地道な取り組みを続けてまいります。センター長である金(キム)聖孝(ソンヒョ) 在日大韓基督教会熊本教会牧師をはじめ、関わるスタッフ、ボランティアの働きを覚え、お祈り下さい。」

主よ、一つひとつの地域と教会、教会の方々を支え、九州教区とボランティアセンター「エルピスクまもと」の働きをお支えください。

関東教区では、2016年7月17日に水戸中央教会が喜びのうちに献堂式を迎えました。この6年間に、伊勢崎教会、宇都宮教会、下館教会、宇都宮上町教会、水戸中央教会が会堂建築を完成させ、アジア学院は本館建築とオイコスチャペル建築を完成させました。桐生東部教会、水戸自由ヶ丘教会、益子教会、原市教会、甘楽教会、佐野教会、足利東教会は、教団と教区の支援を得て、修復工事を完了しました。教団はもとより、海外の主にある交わりから多くの祈りと支援をいただけたことを心から感謝します。また、伊勢崎教会、宇都宮教会、宇都宮上町教会は、今後教団よりの借入金を返済していくこととなります。この返済のためにお祈りください。

主よ、再建された会堂を祝福してください。新たに与えられた会堂が宣教の器として豊かに用いられますように。そして、伊勢崎教会、宇都宮教会、宇都宮上町教会の借入金返済を導いてください。

2016年9月に発生した「関東・東北豪雨」から1年半が過ぎる中で、なお被災からの復興の中にいる方々のために祈ります。また、水海道教会は床上浸水の被害を受けた牧師館の再建工事を進めています。ふたばこども園は新園舎を完成させ、地域の幼児教育の業を担っています。

主よ、被災された一人ひとりを支え、守り、導いてください。そして、水海道教会とふたばこども園をお支えください。

沈黙の祈り（沈黙のうちにそれぞれで祈りましょう）

私たちはこれからも、被災地と被災教会を忘れることなく覚え続け、共に歩みたいと思いを新たにしています。しかし、同時にわたしたちには震災の記憶を風化させてしまう弱さのあることを告白します。この弱さを克服しつつ、私たちは連帯の歩みを続けたいのです。

主よ、わたしたちを、共に歩み、共に働き、共に祈る者としてください。

イエスさまのみ名によって祈ります。アーメン。